鹿児島大学大学院全学横断型教育プログラム「島嶼学教育コース」
島嶼学概論Ⅱ　中之島講義レポート

鹿児島大学大学院　農学研究科　生物生産学専攻
果樹園芸学研究室　　上田　純市

私は今回の中之島での研修を通して多くのことを学ばせてもらいました。私はこれまで研修や交流を通して台湾と奄美大島へ行ったことがあり、島への訪問は今回で 3 回目でした。中之島へ行く前から生活事情はそれぞれの島によって違うだろうと思っていたのですが、実際に行ってみて現実的な問題をいろいろと考えさせられました。

中之島は自然が広がっており、海岸の周囲には島バナナが植えてあり、車は走っていたのですが、近くに信号機は見当たりませんでした。今回泊まらせて頂いた十島開発総合センターへは車で移動し、少し山を登ったところにありました。その近くにはトカラ馬が放牧されており、ここにいるトカラ馬だけが在来の血を引く県の天然記念物にされていました。

到着した私たちはまず、島の方々から生活状況について話を頂き、現状を教えてもらいました。仕事は主に畜産や農業、漁業を中心としていて、これらを兼業しながら生計を立てているということでした。また、自分たちの仕事とは別にフェリーの荷役作業は当番制でされていて、いわばボランティアのようなもので、島での生活は島民同士の協力がなければ成り立たないのだということを実感させられました。特に、車や物が壊れたときなどは自分たちで修理するのが当たり前で、病院も当直医が常にいるのではなく、島を回って定期的にやってくるという状態で、島での生活がいかに大変なものかということを感じさせられました。実際に、今回話を頂いた講師の先生たちはこういった仕事を苦にせず、むしろ自分たちで何でもできるからやりがいがあるとおっしゃっていました。その言葉を聞いた時は、自分の利益だけを求める生活していては、とうてい島では生活できないと痛感しました。

私自身、島での生活にあたってどうすれば島民が増えるか、どうしたら島に活気が出てくるかなどを議論し、考えました。観光スポットや島のブランド、釣りスポットといった良さをアピールして島に活気をもたせることも大事だと思いましたが、それでは一時的に盛り上がったとしても長期的に続くものではないと感じました。私が思うに、個人が利益だけを得ようとするのではなく、島を守ろうとする強い思いがないと島を持続させていくことは厳しいのではないかと思いました。島での生活は私が思っていた以上に大変でしたが、その中でしか手に入らないものもあり、そこが島での魅力であり、最終的にはその思いが島を守ろうとする思いにつながっていくのではないかと私は感じました。

今回、私が島に行ってお世話になった講師の先生たちは、一人一人が島でしか味わえないやりがいや魅力を生活の中で見つけ出されていた気がします。こういう思いを持った人が少しでも島に来るだけでも島に与える影響は大きいのではないかと私は思います。

私自身、短い期間でしたが、中之島を訪問して大学では考えることのない現実問題と向き合わせてもらい、大変勉強になりました。こういった離島での問題を少しでも早く解決できるように、私も現地へ行って自分の目で見て考えていきたいと思います。

最後に、今回お世話になった皆様方、忙しい中、本当にありがとうございました。今度また中之島へ伺った際はよろしくお願いします。